

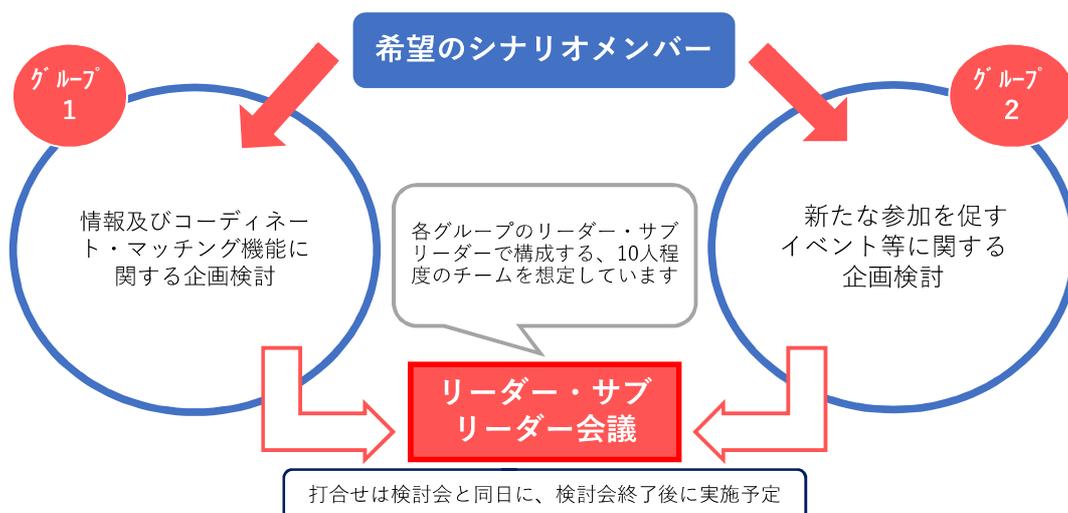
みんながつながる
みんなが輝く
I ♥ ASAO

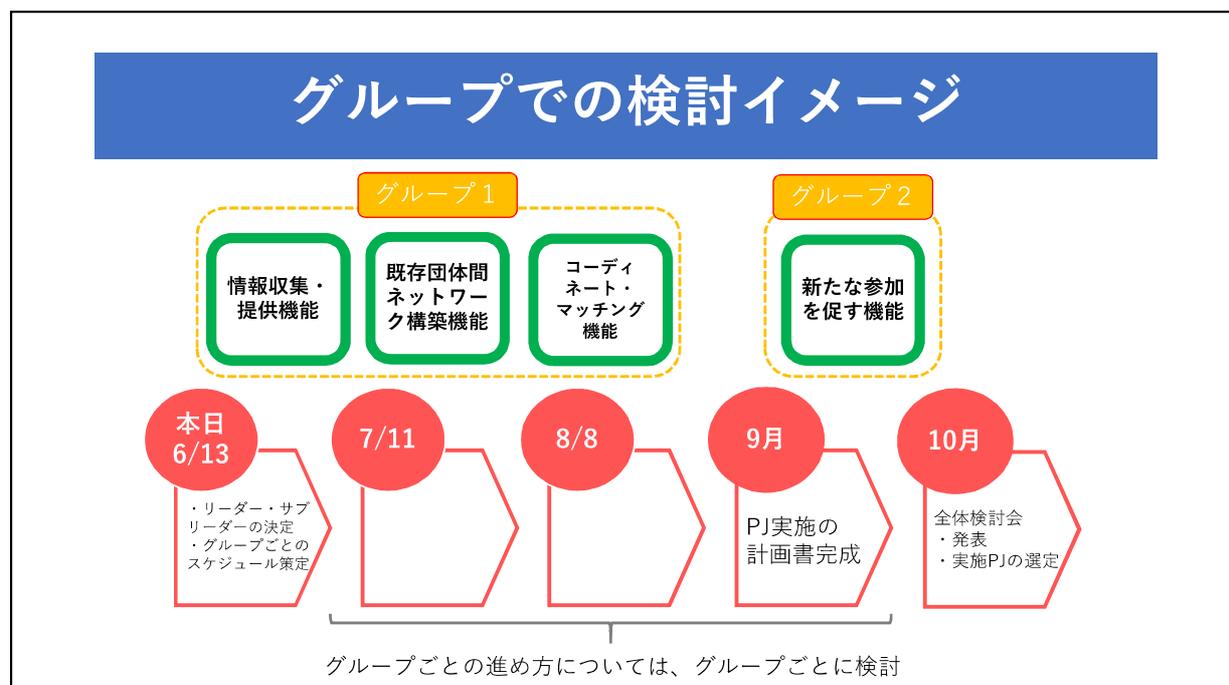
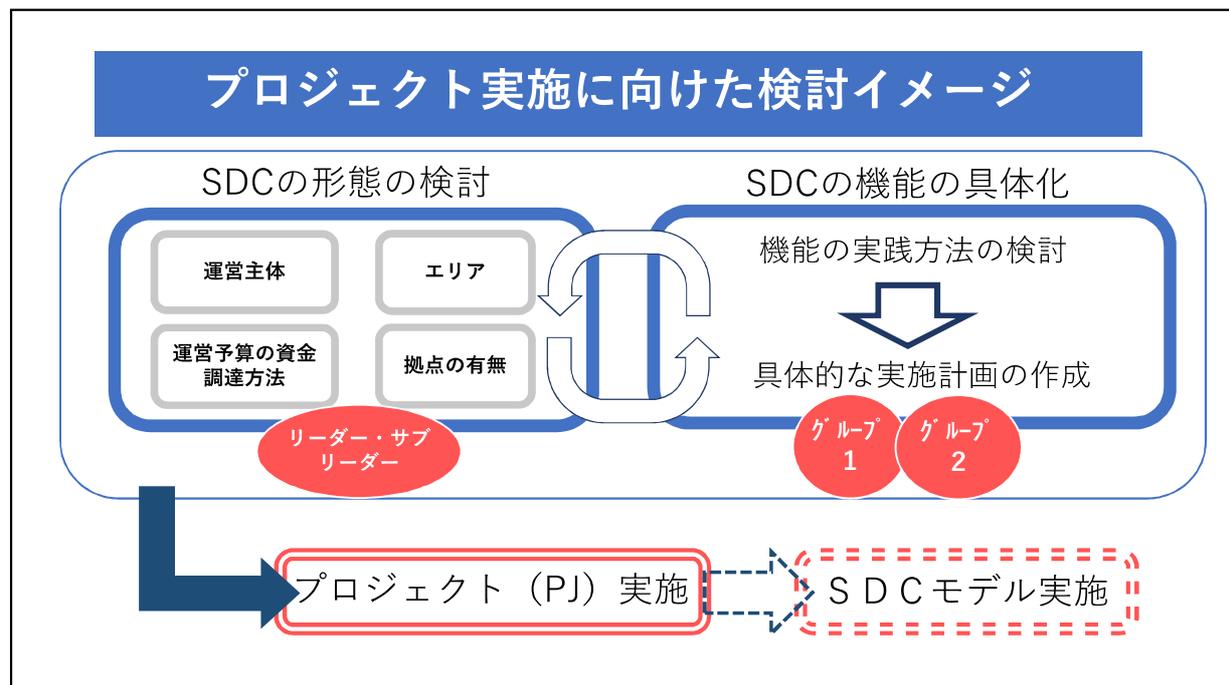
あさお希望のシナリオプロジェクト

令和 3年 6月13日 麻生区役所

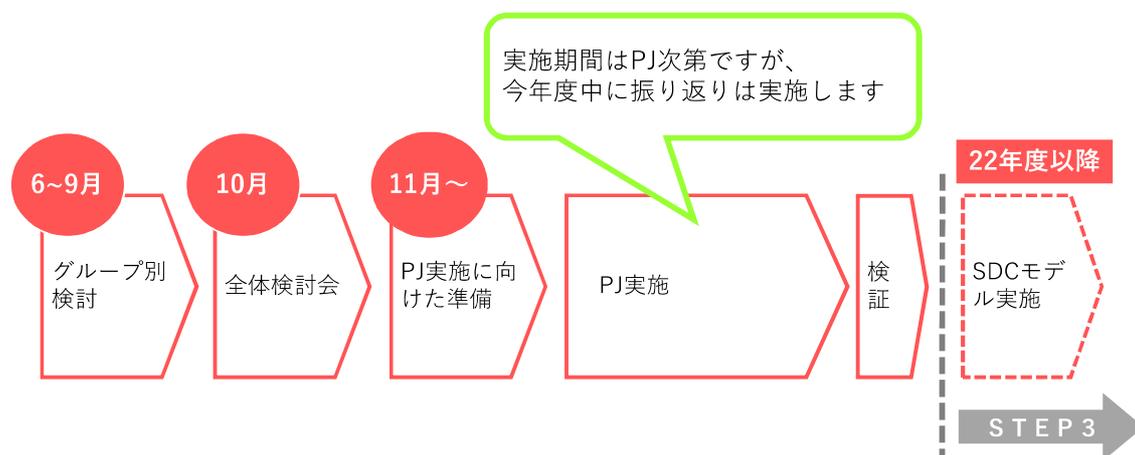


STEP2の進め方





全体のスケジュール（案）



リーダー・サブリーダーの役割

1 各グループでの役割

- グループの統括
- 司会進行（ファシリテーター）※
- グループ検討の進め方の決定
（進め方について決まらない事項がある場合は、メンバーの意見を聴取した上で決定する）
- ※他のメンバーでも可

2 リーダー・サブリーダー会議における役割

- 各グループの情報共有
- SDCモデル実施の検討
- PJの具体的な実施方法の検討

本日の検討事項

全体で決めること

- 1 リーダー・サブリーダーの決定方法
- 2 全体スケジュール

各グループで決めること

- 1 リーダー・サブリーダー
- 2 6～9月のスケジュール

リーダー・サブリーダー会議で決めること

- 1 グループ1・2の情報共有
- 2 グループごとの進め方（未決定事項があれば）
- 3 PJ実施計画書様式

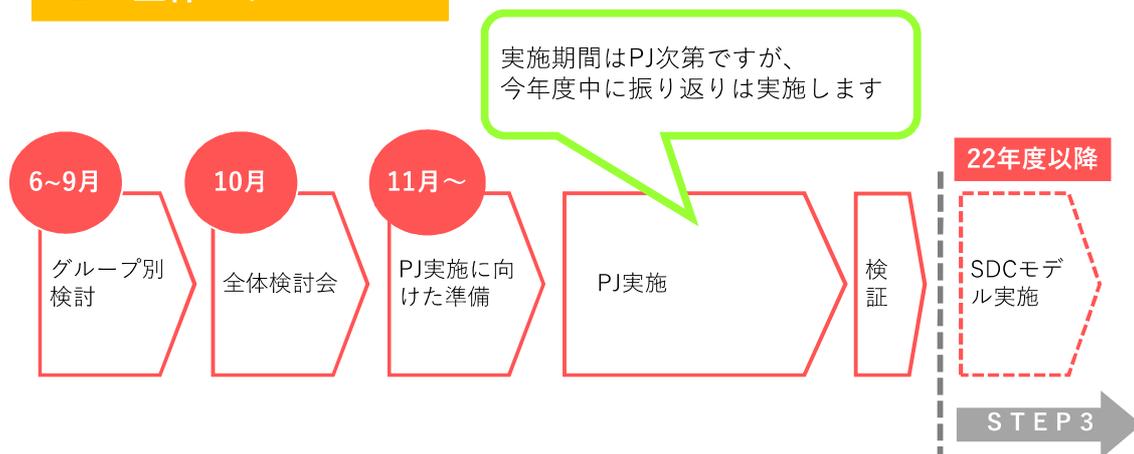
全体で決めること 1

1 リーダー・サブリーダーの決定方法

- ・全体で合計10名程度
- ・各グループリーダー（1名）・サブリーダー（4名程度）
- ・基本的には立候補、いない場合は他薦、複数人いる場合は話し合い

全体で決めること 2

2 全体スケジュール



グループ1 今日決めること

- 1、リーダー（1名）・サブリーダー（4名程度）の決定
- 2、スケジュールの確認

- 検討課題（案） … 前回検討をベースに、「コーディネート・マッチング機能」の実践方法
- 目標設定 … 9月までに「プロジェクト実施計画書」を作成

スケジュール

6 / 13

- 前回検討のふりかえり
- リーダー・サブリーダーの決定
- スケジュールの確認

7 / 11

- 現状把握
- 実施計画案の検討

8 / 8

実施計画書の
作成

9月

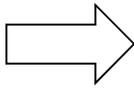
実施計画書の
完成

10月

全体検討会

前回の検討

なぜ現在、地域活動などについて相談できる地域のコーディネーターがいないのだと思いますか？



どうしたらコーディネーターを設置できると思いますか？

コーディネーターがいない原因

解決方法

いるにはいるけれど…

つながっていない・分野ごとに活動が分かれている

場所がないので見えていない・知られていない

ネットワークづくり

場づくり

存在の明確化

情報が集約されていない

情報収集

広報

人材がいない

人材育成

人材確保

予算・賃金

- 各地域・各分野の主要人物の情報を集める
- 場所には多世代のコーディネーターが分野ごとにいる状態
- とにかくコーディネーター的な人が広くつながる機会を作る
- コーディネーター同士の情報交換
- 分野ごとのコーディネーターネットワークを作る
- まとめるのは大変なのでゆるやかに情報交換せよとする
- 既存団体の連携強化
- コーディネーターを束ねる組織づくり

- ふらっと区民が寄れる場所にありそこにコーディネーターがいる
- コーディネート・マッチングの土台となる場づくり
- つながる機会をつつたあとで箱を作る方が良いかもしれない
- 相談できる場所があって、そこに必ず誰か（コーディネーター）がいるという環境づくり

- コーディネーターの役割を明確化・定義する
- 正式な位置づけと公表
- コーディネーターの役割がある程度決まらないと動けない

- 地域活動について棚卸しする
- 情報の集約ができれば
- 団体が支援する仕組みをつくる
- 共有するデータベース
- 地域情報のプラットフォーム

- コーディネーターの存在について広報強化
- コーディネーターが知られる・根付く機会があると良い
- ネットだけでは不十分・（広報の）場所が必要

- コーディネーターのまとめ役が必要
- コーディネーターのコーディネーター
- 問題解決能力のある人がコーディネーターに入るとよい

- 区民から公募する
- 行政側で専従おけるのか、うちうちで対応していくのか
- きちんと配置する

- コーディネーターを仕事として有給にする
- ボランティアではできない

前回の検討

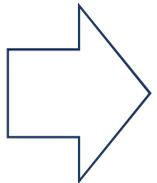
コーディネート・
マッチング機能

理想

地域活動などについて相談できる
地域のコーディネーターがいる

①

なぜ現在、
コーディネーター
がないのだと
思いますか？



②

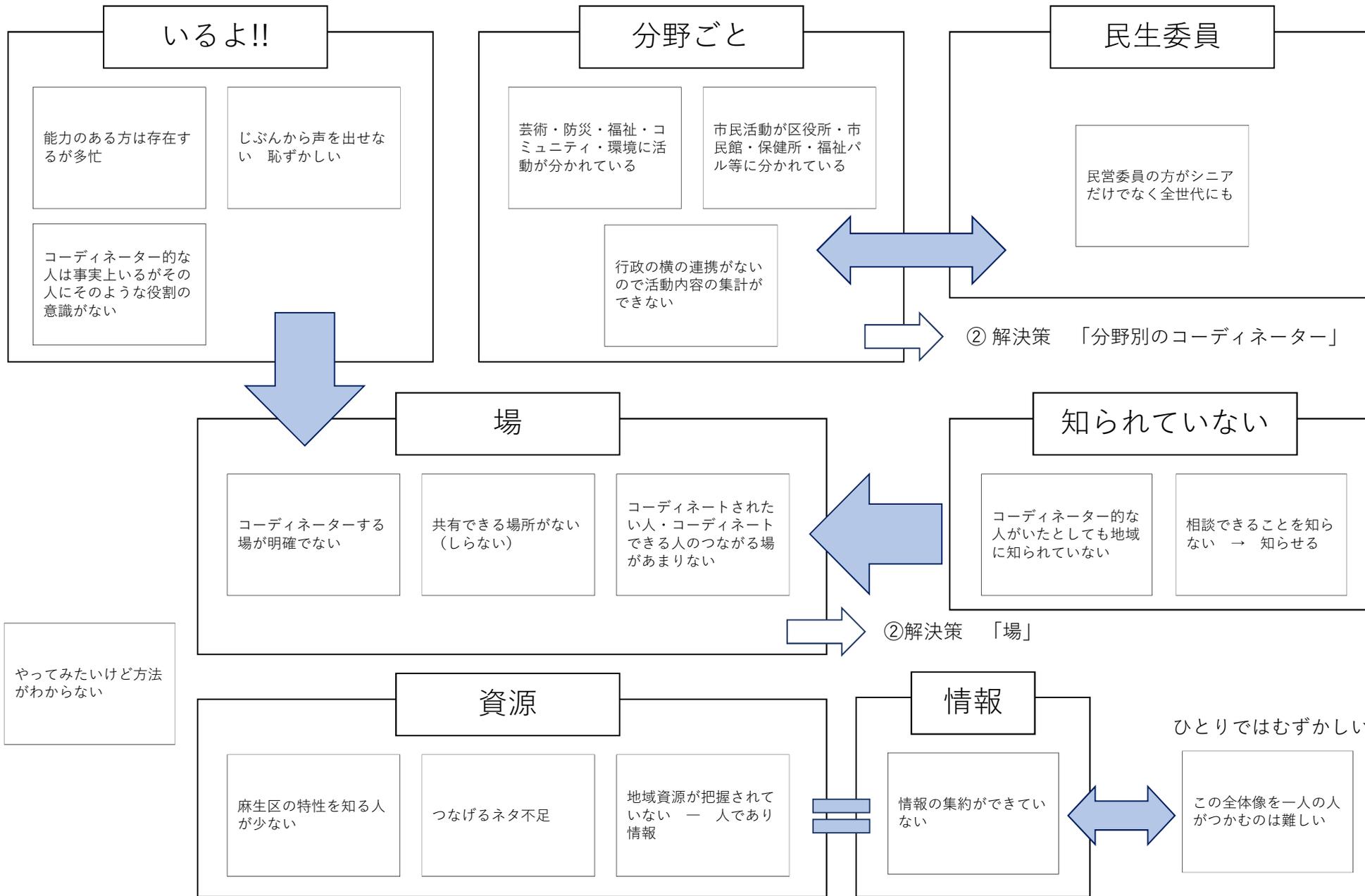
どうしたら
コーディネーター
を設置できると
思いますか？

1班

① 課題・原因

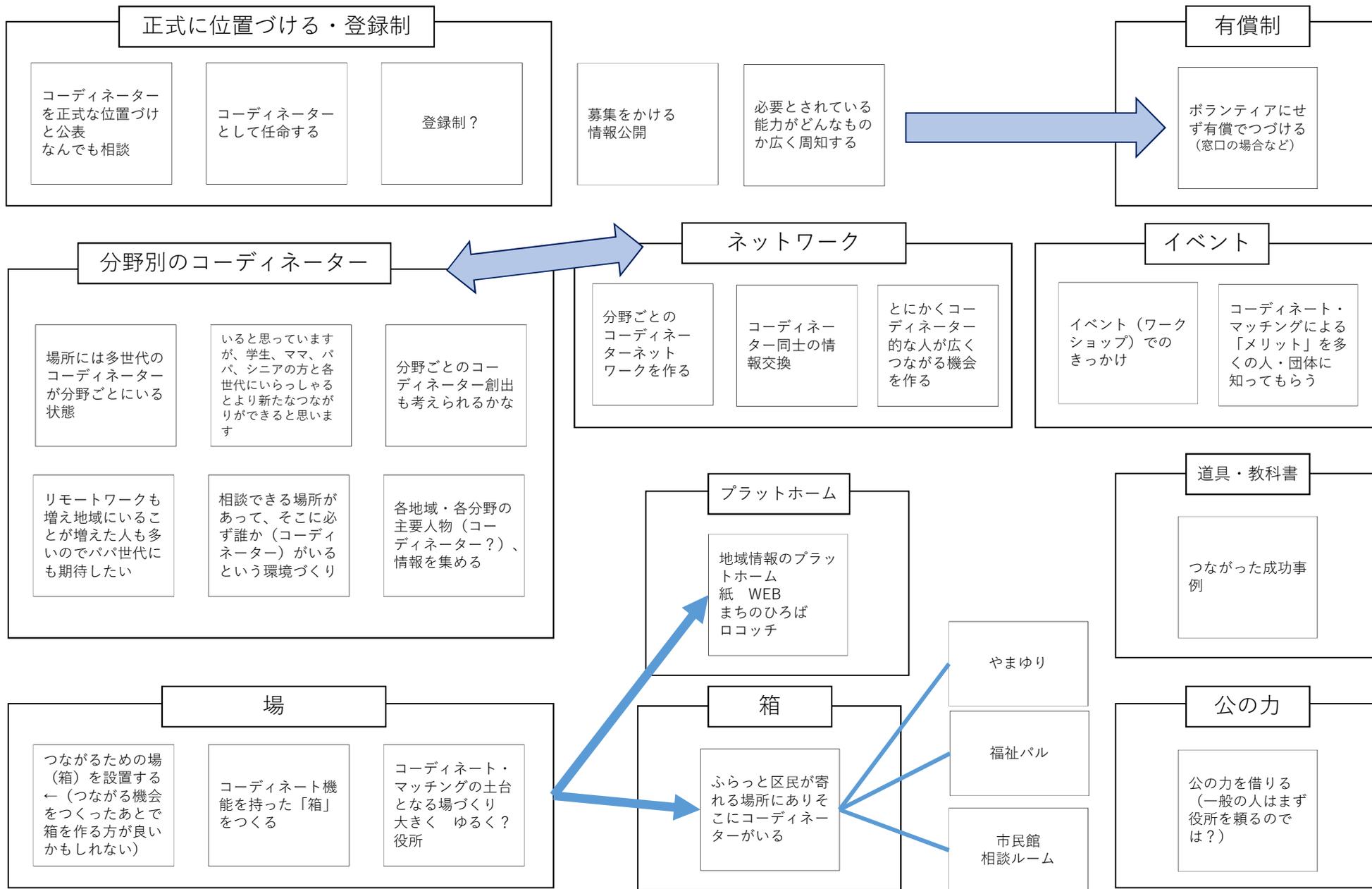
(なぜいないのか)

相談できるコーディネーターがいる



1班

② 解決策（どうしたらコーディネーターを設置できるか）



2班

①なぜ現在コーディネーターがいないのか

情報

雨後のタケノコのように増えてくる市民活動を集約し、活動内容を熟知するのがそもそも困難だから

相談する項目に対して回答する範囲が狭い

地域活動の団体が
多いから

各々の団体の活動内容が多岐に渡りすぎている
⇒分野別に調整が必要

情報が集約できていないからバラバラ

地域活動の活動内容を知らないで「つなげる」という意識が薄い

情報資源
を知らないから

見える化が図られていない

ネットワークができていないから

人材

コーディネーターの認定制度がないので

民間でいうコンサルタントに近いと思う。そのような人材がSDCに興味を示さない
⇒将来的にはある

コーディネーターとしてきちんと保障されていないから

コーディネーターが有給なのかボランティアなのか

コーディネーターを育成していないから

工数がかかるためやりたいと思う人がなかなかいない

コーディネーターとしての役割も見えていない

コーディネートするだけの資質を持った人がいない

コーディネーターはバランスのとれた人と思う。人材は少ない。チームでやる人も多くない。

人財不足
他の部署で活動者多し

ヒト・モノ・カネをまとめられるコーディネーターが少ない

コミュニティに対する支援をする人材があまりいない

自治会、法人などに入りこんで行うコーディネーターが少ない

相談する項目に対してHP等見ても相談しづらい

それぞれ仕事を持っているため時間がとれない

人材の活動時間の調整をどうするか

場所があるのかそれともないのか？
PCとか電話？

つないで終わり（イベントなど）だから継続しない

連携したいとは思いますが具体的に「どこ」連携したいのか見えない

いるけど存在を知らないから

行政への関心・期待が薄い
中途半端でおわってしまう

連携したい、と希望しないケースも散見される

場所がない

相談を受けるだけで外に出て周囲をまきこめるコーディネーターがいない

つながりを求めている人や団体が本気で探せばコーディネーターに頼らずとも見つかる
インターネットetcアクセスは容易

コーディネーターがあつまる「まちの広場」がないから

従来型のチラシ⇒待つだけのコーディネーターはたくさんいるが…中間支援のコーディネーターは少ない

相談しても相手の情報のみ
情報+相手+窓口がないと聞くのに時間がかかる

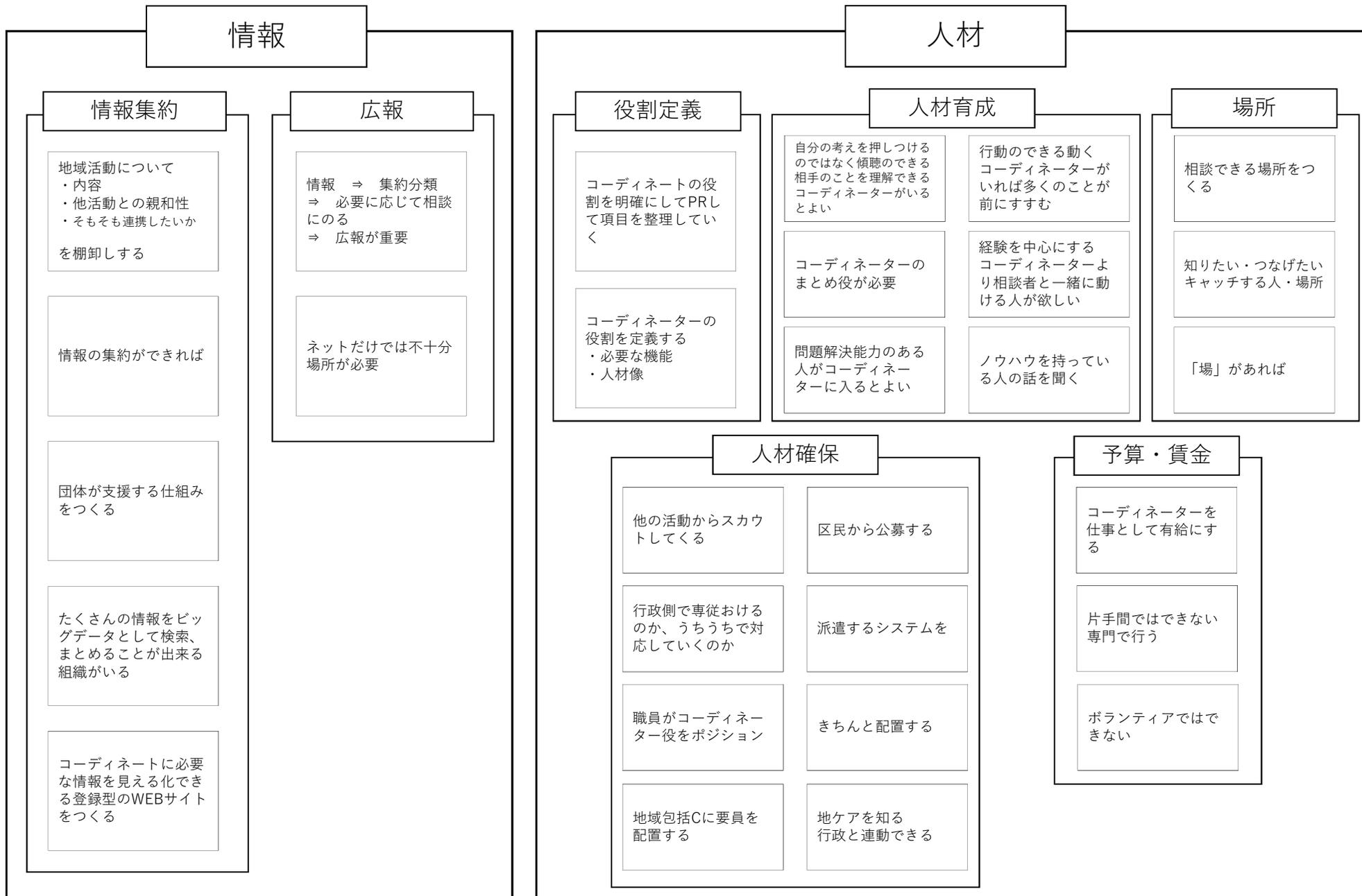
地域活動間をつなげるプロセス、アイテムについてやり方を知らない

地域活動そのものを知らない。関心がない

地域活動全体を見る視点がない

2班

②どうしたら設置できるか



自分たちでできてしまう

そもそもそんなスーパーマンは必要ないため（組織の機能としては別）

今までコーディネートする必要性を感じていなかったから
⇒自分たちで何とかしてきてる

自分がやりたいことは自分でコーディネートする

既存の団体が強い
ため

各団体がいろいろな助成金を活用している
（自分たちで探して）⇒自分たちで何とかしている

麻生区は様々なエリアごと特色が異なるから

これは不安 ここが問題 それをどうする SIZEは

その窓口はどこ？ 担当はだれ？ 公的窓口

報酬が明確でない

身元保障人はだれ？ 住手の実行部隊は

解決までの
・期間
・予算は

資金面（その人の謝礼）も考えないとなり手が出ないのではないかと

予算がどこから出るか

予算・ハード面の課題

それぞれが独自？ システムがない？ 機会がない

置く場所がない

コーディネーターを保証・認定・バックアップする信用できる組織（会社）がない

知られていない

関心がない

コーディネーターになろっかなーと思う人がいなかった

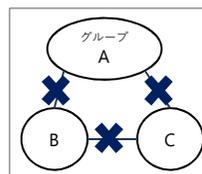
できる能力のある人はいても相談者側がその存在を知らないため

コーディネーターいないのではなく知られていない
すでにいても知らない

活動によって異なる。フォーカスティング（改善型）の場合は身近なところにコーディネーター機能があると便利

コーディネート（マッチング）する目的によって知識や情報が異なるので

コーディネーターをコーディネートする人がいないから



コーディネーター（を見つけること）自体が活動の主たるものの1つ
バックキャスト（改善型）の場合

コーディネーターを専門にできる人がいない
みんな仕事してる？

本人が気づいていない（実はコーディネーター的役割をしているが本人に自覚がない？）

行政と既存の民間で十分だから

役割がまとまっていない

自分には無理

コーディネーターをやろうと思って
も一人の力でできるものではない

全体がまとまっていない

情報の集約がなされていないため

常に必要というわけではないから

コーディネーターの役割がある程度決まらないと動けない

予算・ハード面の課題

コーディネーター情報を集約したメディアをつくる

コーディネーター設置は改善テーマ担当グループの中で検討・推進する

「相談はコーディネーター」へを徹底させる
※ヘイトがすごいです
が…

コーディネーター育成プログラム

行政ができないこと
弱点を明確にしてもらい、それを重点的にする

「必要！」という声を集める

コーディネーターの登録制・認可制に

講座を受け育成する

改革テーマ担当グループはコーディネーター設置は検討しない（グループメンバー自身が将来コーディネーターになる）

コーディネーターやると楽しい
→事例紹介

4班

① 多様な意見！

自分の所がどう上手に
からめるのか、気にな
るのかも

コストと責任の所在

・ボランティアなのか
・ビジネスなのか
コーディネートの目的
は？
責任は？

能力を持った人がいな
い又は限定される

公共性、公益性（官）
VS
民の力
このバランス

福祉や企業や行政や区
民の行動様式が違うの
で共感理解しにくい

一人ががんばろうとし
ている人が多い
(たよれない)

立場が不明確
官側？
民側？

お金
時間 ない！

つながりたいけどそれ
に労力をさけない

官民一体となったPR
委託されたもの
麻生区
これにはコンプライア
ンス大切

福祉や企業や行政の区
民
共通言語ができていな
い

暮らしは幅広いので全
体を知ってCo.するの
はむずかしい

コーディネーターとい
う名のつくものがたく
さんある
・生活支援～
・地域教育～

コーディネーターを支
えるシステム
継続可能なシステム

コーディネーターの存
在が地域で、あまり知
られていない（知名
度）

情報の集約、整理

各テーマ（パーパス）
毎にコーディネーター
を決めるチャンスが無
かった

コーディネーターの方
が活躍できる場が少な
い
対象が明確でない

一人で出来ない
(手がまわらない)

個性が強い人、団体が
多い

個の支援は活発
その支援の輪を有機的
につなげる仕組みが不
足

麻生区で地域コーデ
ィネーターの制度をつ
くる（設定）
(既存の制度を知ら
ない人も多い)

地域の力や、活動の団
体の方々に知られてい
ない、根付いてない

コーディネーターの
ミッションが明確に決
められていない

コーディネートの仕組
みが明確になっていな
かった

引継ぎがうまくいかな
いので一代でおわっ
てしまう

全体のコーディネート
の必要性（メリット）
を感じてない

小地域
個々で問題ない？

町内会との区別が不明
のため
コーディネーターとの
協働が必要と思う

国家資格 技術士の活
用
建設部門（都市計画部
門）等がコーディネ
ーターを担う

困りごとを伝えられる
楽しい感じの場（人）
が少ない

目的意識をもてる課題
はなんとか解決に近づ
けるが、もやもやした
ものは相談の形になら
ない

一定数の交通移動目的
のために麻生区へ住む
人はいる（今後も）
外からのコーディネ
ーターをつくる

高齢者まだまだ孤立し
ている

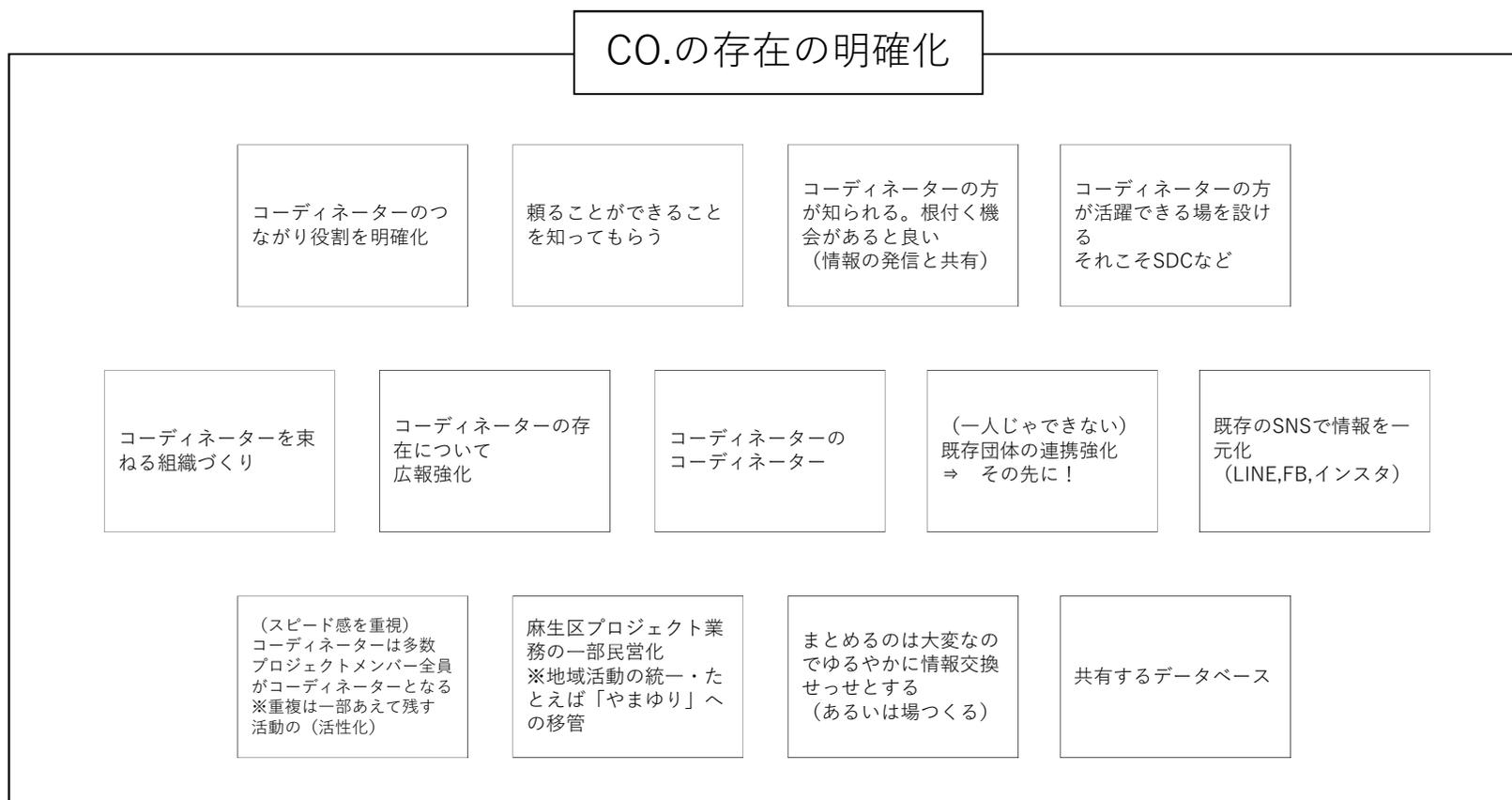
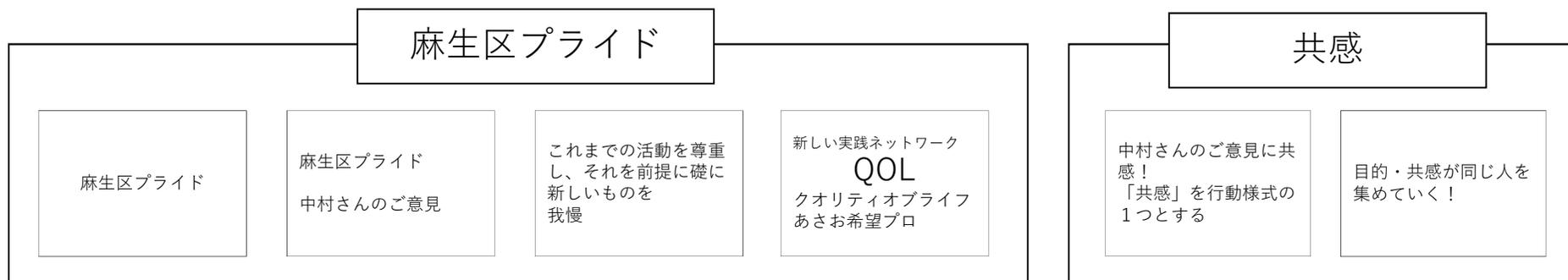
町内会の無力化

プロジェクト→定着化
例えば、シビックプラ
イドのように麻生区条
例化
条例化することで（定
着化、継続化）

若手対象のコーデ
ィネーター不在
福祉中心も重要だが？

担い手不足
(負担が大きそう)

実働者育成



オンライン

①なぜコーディネーターがいないのだと思いますか？

★ ・コーディネーターが安心して活躍できる組織が必要

★ ・公平感・安心感のある組織が必要

→ ・あくまで「現状」は、全てを網羅している人がいないから



♥ → ・それを業とする人がいないから = ビジネスとならない = 主体的にやる人がいない

・程度win(課題有る人)-win(コーディネータ)-win(解決する人)の関係が無い

→ ・何故いないかはコーディネータに付加価値が無いからも有るのでは？
調べて分かる範囲のコーディネートしかないのかなと(全員でないにせよ)
根本的な課題を解決出来たり、+αを考えられる人がいないと付加価値無いです

★ ・人選を誰がするのか

★ ・公平公正さを誰が保つのか

♥ ・コーディネーターのメリットは

・ニーズが無い、あるいは少ないから

♥ ・小さなコーディネーターはいるが手の届く範囲でしか、広げられないと思う。
よろず屋的な仕事をするにはそれ相応の対価(仕事としてやる)がないと難しいのでは。

・利用者の利用を有料にすると、使う人いない

一方、行政側の立場に立つと補助金を出すメリットも少ない

・出逢いが無い(いい人がいることを知らない)から結果的にひろがらない

②解決策検討

♥ ・行政の介入

♥ ・お金があれば

♥ ・おもしろさみたいなものを知る→

ボランティアでやってくれるひとがでてくる

♥ → ・コーディネーター資格として与える

→ 資格保有を自分のスキルとして、仕事にもつかえる

・利用者からお金を頂くマッチングで想定すると、
成功報酬型にするとかならまだハードル下がる

→ ・ニーズの具体的な掘り下げをしつつ、それに応じた組織を考えていけばよい

→ ・団体を回る外回り担当は必要→地域の情報収集

→ ・コーディネーターの育成講座

→ ・チームで

→ ・保有スキルの調査

グループ2 検討資料

資料1

目標

9月までに「プロジェクト実施計画書」を作成

プロジェクト実施計画書の内容

「新たな参加を促す機能」の実践方法

今日決めること

- 1 リーダー（1名）・サブリーダー（4名程度）
- 2 6～9月のスケジュール

6 / 13

- リーダー・サブリーダーの決定
- 短期スケジュールの策定

7 / 11

- PJ実施計画書を作る企画案の決定
- PJごとにチーム分け

8 / 8

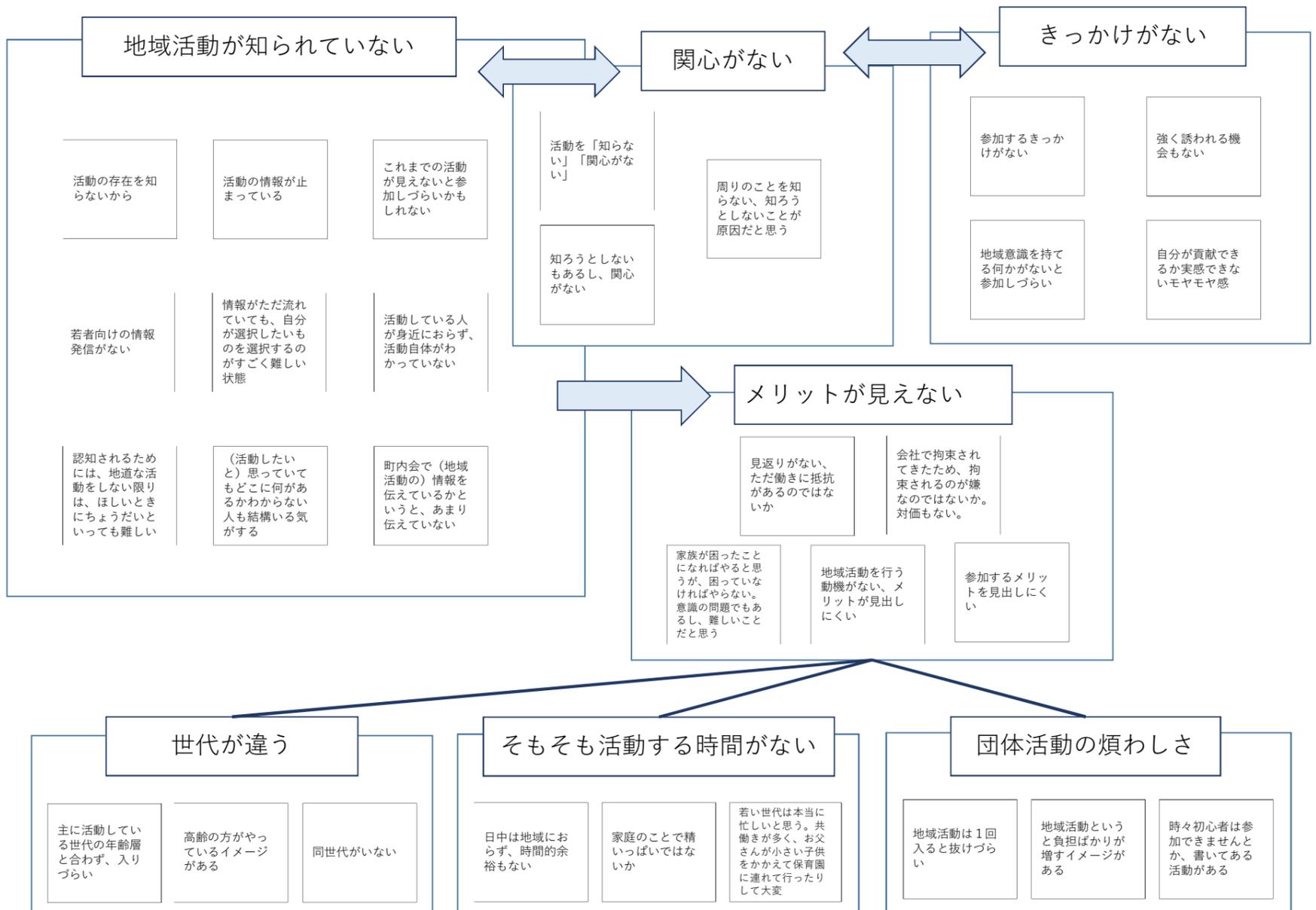
- PJ実施計画書の作成
- PJ同士の意見交換

9月

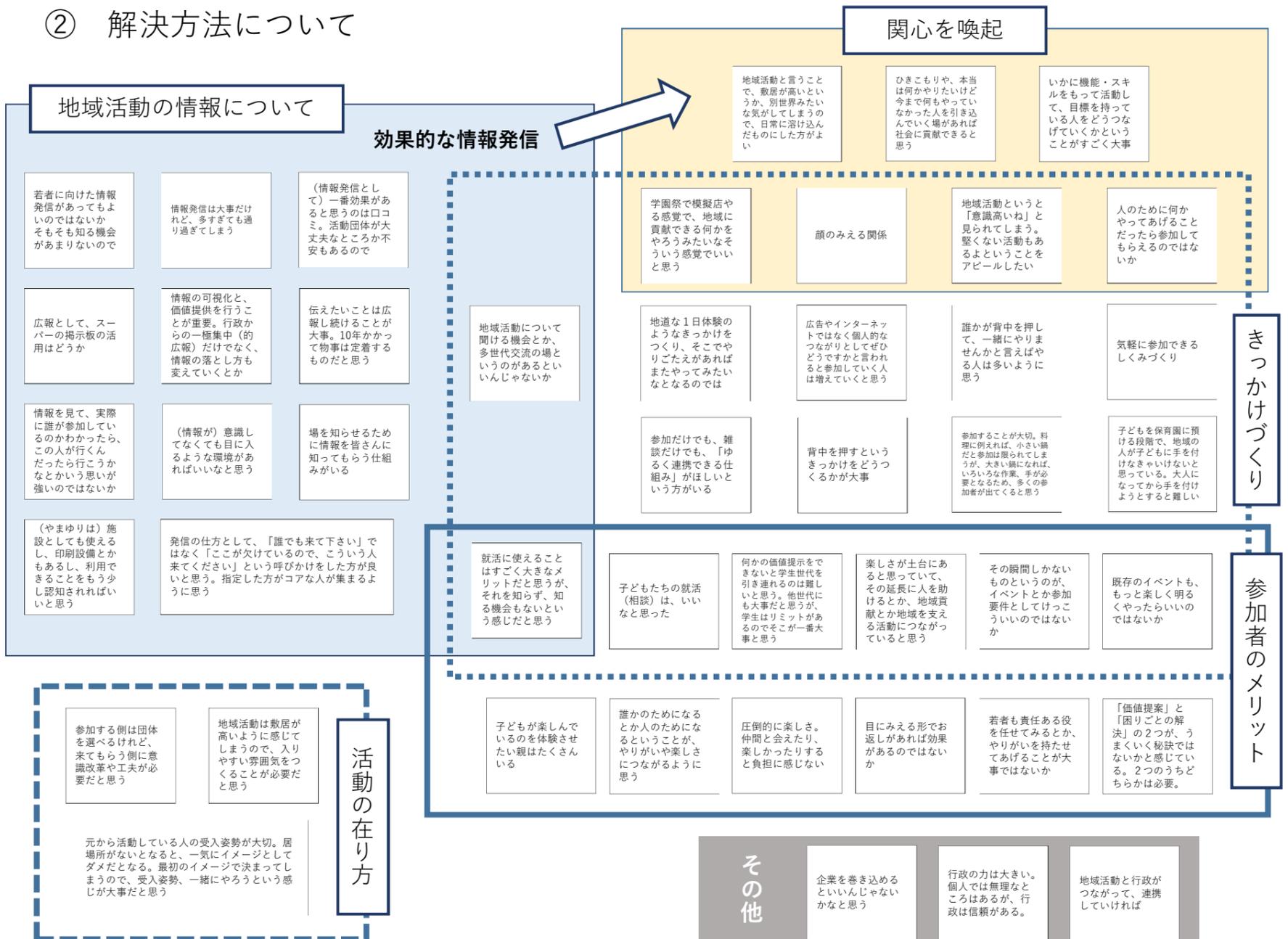
- PJ実施計画書の完成
- 優先順位決め

10月

- 全体検討会で発表



② 解決方法について



地域活動に参加する人を増やすためには？

① 地域活動に参加していない理由はなにか

資料2-2

1 班		2 班		3 班		4 班		5 班	
活動の存在を知らないから	活動の情報が止まっている	主に活動している世代の年齢層と合わず、入りづらい	参加するきっかけがない	見返りが無い、ただ働きに抵抗があるのではないか	活動している人が身近におらず、活動自体がわかっていない	周りのことを知らない、知ろうとしないことが原因だと思う	知ろうとしないもあるし、関心がない	会社で拘束されてきたため、拘束されるのが嫌なのではないか。対価もない。	(活動したい) 思っているけどどこに何があるかわからない人も結構いる気がする
高齢の方がやっているイメージがある	地域活動は1回入ると抜けづらい	家庭のことで精いっぱいではないか	参加するメリットを見出しにくい	自分が貢献できるか実感できないモヤモヤ感	活動を「知らない」「関心がない」	家族が困ったことになればやると思うが、困っていないとやらざるを得ない。意識の問題でもあるし、難しいことだと思う		町内会で(地域活動の)情報を伝えているかというところ、あまり伝えていない	時々初心者は参加できませんとか、書いてある活動がある
同世代がいない	地域活動を行う動機がない、メリットが見出しにくい	地域活動という負担ばかりが増すイメージがある	地域意識を持って何かがないと参加しづらい	認知されるためには、地道な活動をしない限りは、ほしいときにちょうどいい状態	情報がただ流れていても、自分が選択したいものを選択するのがすごく難しい状態	若い世代は本当に忙しいと思う。共働きが多く、お父さんが小さい子供をかかえて保育園に連れて行ったりして大変			
若者向けの情報発信がない		日中は地域におらず、時間的余裕もない	強く誘われる機会もない	これまでの活動が見えないと参加しづらいかもしれない					

若者世代



シニア世代

地域活動に参加する人を増やすためには？

② 解決策について

1 班		2 班		3 班		4 班		5 班	
若者に向けた情報発信があってもよいのではないかと、そもそも知る機会があまりないので	楽しさが土台にあると思っていて、その延長に人を助けるとか、地域貢献とか地域を支える活動につながっていると思う	地域活動と言うことで、敷居が高いというか、別世界みたいな感じがしてしまうので、日常に溶け込んでものした方がよい	参加する側は団体を選ぶけれど、来てもらう側に意識改革や工夫が必要だと思う	目に見える形でお返しがあれば効果があるのではないかと	広告やインターネットではなく個人的なつながりとしてぜひどうですかと言われると参加していく人は増えていくと思う	参加することが大切。料理に例えれば、小さい鍋だと参加は限られてしまうが、大きい鍋になれば、いろいろな作業、手が必要となるため、多くの参加者が出てくると思う		参加だけでも、雑談だけでも、「ゆるく連携できる仕組み」がほしいという方がいる	ひきこもりや、本当は何かやりたいけど今まで何もやっていなかった人を引き込んでいく場があれば社会に貢献できると思う
学園祭で模擬店やる感覚で、地域に貢献できる何かをやらしてみたいなそういう感覚でいいと思う	若者も責任ある役を任せてみるとか、やりがいを持たせてあげることが大事ではないか	地域活動は敷居が高いように感じているので、入りやすい雰囲気をつくる必要があると思う	「価値提案」と「困りごとの解決」の2つが、うまくいく秘訣ではないかと感じている。2つのうちどちらかは必要。	地道な1日体験のようなきっかけをつくり、そこでやりごたえがあればまたやってみようとなるのでは	誰かが背中を押して、一緒にやりませんかと言えややる人は多いように思う	いかに機能・スキルをもって活動して、目標を持っている人をどうつなげていくかということがすごく大事	伝えたいことは広報し続けることが大事。10年かかって物事は定着するものだと思う	場を知らせるために情報を皆さんに知ってもらえる仕組みがほしい	(やまゆりは)施設としても使えるし、印刷設備とかもあるし、利用できることをもう少し認知されれば良いと思う
就活対策でもいいし、お金、楽しさでも、何かの価値提示をできないと学生世代を引き連れていくのは難しいと思う。価値提示は学生は他の世代にも大事だと思うが、学生はリミットがあるのでそこが一番大事であると思う		情報の可視化と、価値提供を行うことが重要。行政からの一極集中(的広報)だけでなく、情報の落とし方も変えていくとか	子どもたちの就活(相談)は、いいなと思った	企業を巻き込めるといういいんじゃないかなと思う	背中を押すというきっかけをどうつくるかが大事	広報として、スーパーの掲示板の活用はどうか	行政の力は大きい。個人では無理なところはあがるが、行政は信頼がある。		
就活に使えることはすごく大きなメリットだと思うが、それを知らず、知る機会もないという感じだと思う	地域活動について聞ける機会とか、多世代交流の場というのがあるといんじやないか	子どもを保育園に預ける段階で、地域の人や子どもに手を付けなきゃいけないと思っている。保育園、小学校、中学で、という仕組みを地域に落とし込んでいかないと来ないと思う。大人になってから手を付けようとなるから、やったことがない云々という話になる。		情報を見て、実際に誰が参加しているのかわかったら、この人が行くかなんとかいう思いが強いのではないかと	人のために何かやってあげることだったら参加してもらえないかな				
既存のイベントも、もっと楽しく明るくやったらいいのではないかと	(情報発信として)一番効果があると思うのは口コミ。活動団体が大丈夫なところか不安もあるのでは	発信の仕方として、「誰でも来て下さい」ではなく「ここが欠けているので、こういう人に来て下さい」という呼びかけをした方がよいと思う。指定した方がコアな人が集まるように思う		顔のみえる関係	気軽に参加できるしくみづくり				
地域活動というと「意識高いね」と見られてしまう。堅くない活動もあるよということをアピールしたい	地域活動と行政がつながって、連携していければ			誰かのためになるとか人のためになるということが、やりがいや楽しさにつながるように思う	圧倒的に楽しさ。仲間と会えたり、楽しかったりすると負担に感じない				
元から活動している人の受入姿勢が大切。居場所がないとなると、一気にイメージとしてダメだとなる。最初のイメージで決まってしまうので、受入姿勢、一緒にやろうという感じが大事だと思う				(情報)意識しなくても目に入るような環境があればいいと思う	情報発信は大事だけれど、多すぎても通り過ぎてしまう				
				子どもが楽しんでいるのを体験させたい親はたくさんいる	その瞬間しかないものというのが、イベントとか参加要件としてけっこういいのではないかと				

プロジェクト企画書（案）

資料3

氏名 _____

プロジェクト名	プロジェクト
プロジェクト内容	
どんないいことがあるか（効果）	